

今回から執筆メンバーに加わりました、消費経済ジャーナリストの松崎のり子です。

私たちは日常的に様々な金融サービスを利用しています。一見おトクに見えても、そこに思わぬ落とし穴が潜んでいることも。家計を守るために覚えておきたい知識や、アップデートしておくべき情報についてお伝えしていきます。

### ●現役世代の平均積立額は約4万円

2024年から新制度となり、順調に口座開設数が伸びているNISA。中でも30代40代は「つみたて投資枠」の利用が多くなっています。つみたて投資枠は年間120万円まで、月割りすれば10万円まで積立投資ができますが、利用者はいくらかの金額を積み立てているのでしょうか。

新NISAでは楽天証券・SBI証券の2大ネット証券が口座数をがちり押さえているのですが、楽天証券が公表している数字では、月3万円以下が36%、3万3333円以下が23%、5万円以下が17%、10万円以下が24%となっており、平均で4万2528円とのこと（2024年6月末。つみたて投資枠のみ）。毎月10万円近くも積み立てしている人が一定数いるとは驚きですね。

### ●投資金額に応じたポイント付与が人気のクレカ積立

実は、この金額には理由があります。主なネット証券では、積立投資の購入資金をクレジットカード払うことができます。「クレカ積立」とも言われ、投資しながらカードのポイントも得られるのが大きな魅力。積立額に応じて付与されるので、その金額が多ければ多いほどポイントがたくさんもらえるのです。そのため、ポイント目当てで、つみたて投資枠いっぱい10万円を選ぶ人

も少なくないのではないのでしょうか。

NISAの積立をコツコツ続けたとしても、その果実を手にはできるはずいぶん先になるでしょう。でも、ポイントなら今すぐ手にできて、お金代わりに使えるわけですから、一石二鳥のおトクな方法だと飛びついてしまうのも無理はありません。

楽天とSBI、この2つのネット証券は常にポイント還元率を競ってきました。さらにクレカ積立では、年会費の高いカードほどポイント還元率も高い仕組み。楽天証券では同グループの楽天カードを使った積立で、カードのランクごとに0.5~2%還元、SBI証券は数種類のクレジットカードが利用可能ですが、代表的な三井住友カードで0.5~5%還元です（10月買付分まで）。ポイント好きの間では、「どっちでNISAを積み立てるのがおトクか」と常に話題になるほど。

しかし、2024年11月に思わぬ事態が待ち受けていたのです。

### ●ポイントの高還元は、あくまで客寄せのサービス

SBI証券は、三井住友カードのポイント付与の条件を11月の投信買付分から大幅に変えると発表。これまで5%付与していた「三井住友カード プラチナプリファード」「Oliveフレキシブルペイ プラチナプリファード」（年会費3万3000円）は3%へと引き下げになり、しかも積立投資を含まない年間カード利用額が、なんと500万円以上必要という条件も付きました。年間300万円以上利用しても2%、300万円未満なら1%しか還元されないのです。

ここまでハードルが高くない年会費無料の「三井住友カード（NL）」「Oliveフレキシブルペイ」（従来の投信積立還元率は0.5%）でも、10万円以上の年間利用がマストになりました。もしカード利用額が10万円

に達しない場合はなんと0%！ポイント還元がいっさいなくなるというのです。これには驚きました。

NISA口座は、年に一回金融機関を変更できます。でも、いちいち変更するのは面倒だからと、そのまま継続する人が多いでしょう。そうなるのが最初が勝負です。金融機関はエントリー時にはどんどんサービスし、ライバルの出方を見ながらポイント還元率を決めたりするものです。しかし、それが未来永劫続くわけではないという、ほろ苦い前例になりました。クレカ積立でポイントがもらえると当て込んでSBI証券に口座を開いた人は、この先どうしようか悩んでいるかもしれませんね。

### ●長期投資するなら無理な積立は禁物

では、楽天カードならいいかといえば、そうとも限りません。NISAではありませんが、こちらもたびたびポイント付与の変更を行っており、2024年8月に生命保険・損害保険料や携帯電話料金の支払いへのポイント付与を引き下げたばかり。どんな決済にいくらポイントをつけるかは運営する事業者が決めることで、利用者はあくまで受け身であるしかありません。「こっちはほうがおトクだ」と選んだとしても、事業者の都合で、オセロのようにいとも簡単にひっくり返ってしまうのですね。

そもそもNISAの目的は、長期で資産を増やすこと。そのためには無理なく続けられる積立金額にとどめる必要があります。ポイントが欲しいからと背伸びした金額を、しかも毎月カード決済するというのは気がかりな状況です。将来のための投資積立が、現在の家計の首を絞めては本末転倒です。無理な積立額のせいでNISA貧乏家計になっていないか、もう一度見直してみましょう。